

訪日客向け地方ツアー

JTB 農水産物産地と連携

JTBは訪日外国人を地方に送客する新たな取り組みを始める。全国の産地と連携してアジアで高級果物などの特産品を統一ブランドで販売。興味を持った富裕層などに産地を巡る訪日ツアーを売り込む。訪日客は増加が続くが、訪問先は大都市に偏りがち。食べ物を通じて地方の良さをアピールし、リピーターづくりにつなげる。

JTB西日本(大阪市)が全国の生産者などと連携して企画する。まず20日から、香港向けに京都府京丹後市の農園でとれた糖度の高いナシを販売する。

イオンの現地向けのネット通販を活用し、ヤマト運輸の「国際クル宅急便」で鮮度を保ったまま海外の顧客に届ける。取り扱う農水産物は順次、増やしていく。

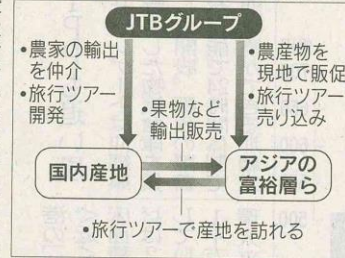
沖縄、青森などの生産者とも交渉しており、「ジエイズアグリ」のブランド名で売り込む。早ければ年内にもシンガポールへの輸出も始める。

農産物輸出を通じた産地との連携を観光にも広げ、新たな訪日客向けの商品も開発する。ナンなど輸出した農産物に付けたQRコードを読み込むと、生産のこだわりや観光情報が手に入るようにして誘客につなげる。

第1弾として、来年1月には京丹後市の農園での味覚狩りと周辺でとれる高級カニ、温泉を組み込んだツアーを発売する。来春までに同様のツアーを10コース用意し、来年度中には30コースに増やす。

訪日客増加が続くなか、東京や大阪などでは宿泊

訪日を促す好循環を目指す



まず京都府京丹後市の農園と組んで果物の輸出と旅行ツアー開発を手がける

施設の不足なども深刻になっている。一方でJTBは国内の地方都市の宿泊・観光施設などと密接な関係を持つ。観光資源で、訪日客を継続的に取り込みたいと考えた。

開発遅れ伝えず 担当部長を処分

三菱自 PHV 巡り
三菱自動車は多目的スポーツ車(SUV)タイプのプラグインハイブリッド車(PHV)「RV R」の次期車開発をめぐり、開発の遅れを適切に報告しなかったとして担当部長2人を諭旨退職処分にした。当初は2016年度に発売する予定だったが、軽量・小型化が十分に進まず、17年度に延びる予定だ。開発の遅れを受け、相川哲郎社長が役員報酬を自主返納するなど、開発や品質担当役員も処分した。開発者は軽量・小型化が思うように進まなかったが、上司への十分な報告を怠ったという。国土交通省への虚偽報告など社外への法令違反はなかったとしている。